

ご存知ですか？ 駅ごとにナンバーがついているのを

私たちの周りには、様々な障壁（バリア）があります。

道路の段差などの「物理的なバリア」、文化・情報に接する機会の制限などの「文化・情報のバリア」、慣行やしきたりなどの「制度的なバリア」、そして、偏見や無理解などの「心理的バリア」などです。これら**障壁（バリア）を取り除き、誰もが生活しやすい社会にしようという考え方を「バリアフリー」と**いいます。

2020 オリンピック・パラリンピックを契機に、一層のバリアフリー化が進められています。訪日外国人旅行者の方をはじめ、高齢者、障がいのある方などすべての利用者に、より分かりやすく、安心して鉄道を利用するために「**駅ナンバリング**」が導入されています。気をつけなければならないのは、駅番号は全路線で共通ではなく、鉄道会社や路線によって違う、ということでしょうか。

駅ナンバリングは路線記号と駅番号がセットとなりますので、近畿日本鉄道(株)では、**近鉄奈良駅では難波・奈良線「A28」**になります。



榛原駅は「D45」、室生口大野駅は「D46」、三本松駅は「D47」です。

駅のナンバリングの見方が分かれば、外国からの旅行者に尋ねられたとき、お知らせできるかもしれませんね。

また、障壁（バリア）をなくすという発想の「バリアフリー」とは別に、「ユニバーサルデザイン」という言葉があります。障壁をなくすという発想ではなく、はじめから誰にでもやさしい、利用しやすい施設・製品・サービス・環境であるためのデザインのこと、障壁のない設計をあたりまえにしようとする考え方です。

21世紀の社会がめざしているのは、国籍・障がいの有無・年齢・性別などに関わりなく、誰もが互いに尊重し合いながら共に生きる、ノーマライゼーションの実現です。

来年はオリンピックイヤーです。困っている観光客の方の力になれますように。